

三重県工業研究所の津高等技術学校との一体整備を含む建替え再整備 基本計画（中間案）について

令和6年3月、「三重県工業研究所の機能強化・施設整備にかかる基本構想」を策定し、現在4か所ある拠点施設を2拠点（四日市市・津市）において一定の機能の集約と配置を行いつつ、県立津高等技術学校との一体整備など、関係機関との連携強化により、技術支援機能の一層の強化・充実をめざすとする基本ビジョンをまとめました。

令和6年度は、工業研究所2拠点の具体的な支援機能を設定するとともに、津高等技術学校も含めた再整備の基本的要件等を整理する「基本計画」の策定に取り組んでいます。

1 工業研究所（工研）の建替え再整備に向けたビジョンについて

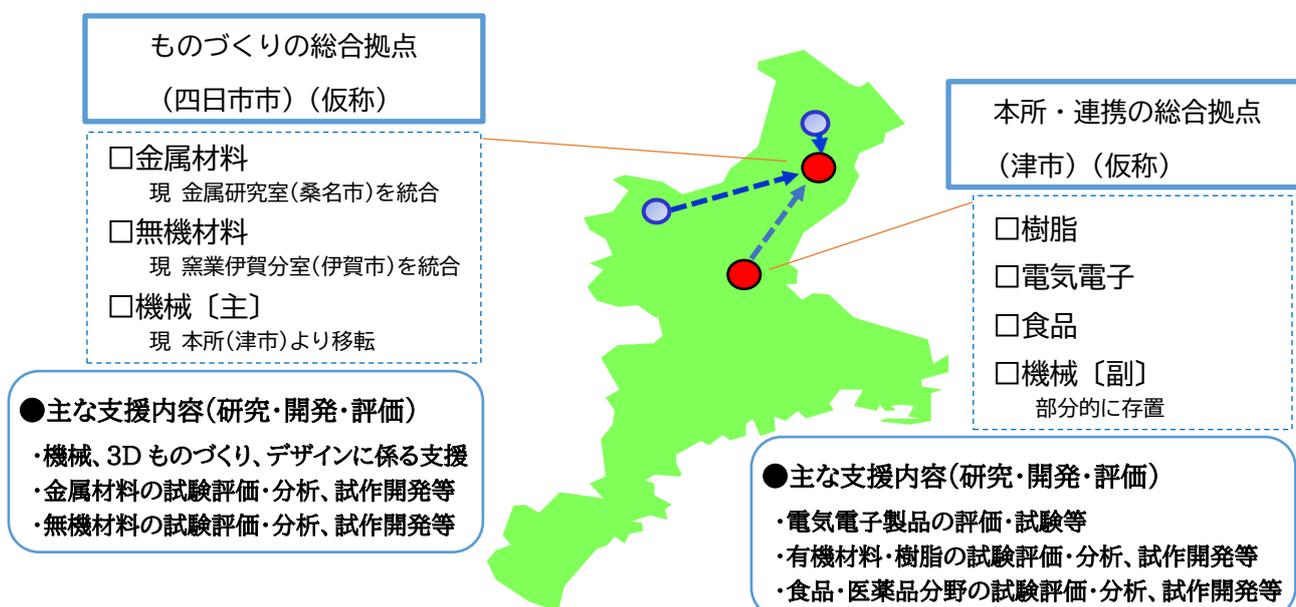
- ・基幹・地場産業や成長産業への技術支援の強化（機器設備の充実、人員組織の配置）や、関係主体（県産業支援センター、自治体、大学、高専等）との連携の強化を図ります。
- ・工研のあるべき姿・コンセプトを“地域を支えるものづくりパートナー”とします。
- ・現状4拠点について、金属研究室（桑名市）と窯業研究室伊賀分室（伊賀市）は再整備せず、「ものづくりの総合拠点（四日市市）（仮称）」-現窯業研究室-と、「本所・連携の総合拠点（津市）（仮称）」-現本所-の2拠点において、機能別に建替え再整備します。
- ・ものづくりの総合拠点（四日市市）（仮称）は窯業分野と金属分野を統合配置するとともに、本所・連携の総合拠点（津市）（仮称）には食品分野を配置し、それ以外の全部又は一部をものづくりの総合拠点（四日市市）（仮称）に配置（移転）します。
- ・県産業支援センターや三重大学、高専等との連携強化を進め、津高等技術学校との一体整備（本所・連携の総合拠点（津市）（仮称））等により、産業振興拠点としてのプレゼンス向上を図ります。

2 工業研究所の2拠点の機能配置方針について

（1）技術支援の基盤となる基礎的技術分野の機能配置

工業研究所の現行の支援機能をベースに、技術支援の基盤となる基礎的技術として金属材料、無機材料、機械、樹脂、電気電子、食品の6つの分野に整理したうえで、ものづくりの総合拠点（四日市市）（仮称）への一定の集約と、企業立地状況等のバランスにも留意した配置を行います。

工業研究所 2拠点における支援機能



※産業分野を問わず、一般的な技術や品質管理(製品不具合-異物混入・変色・破損等-)にかかる課題、生産技術等は両拠点で対応。

(2) 産業分野を横断する技術支援テーマ（社会経済情勢により機動的に見直し）

企業の成長分野進出等に向けて産業分野横断の5つの技術支援テーマを設定します。

① 「GX・エネルギー」（ものづくりの総合拠点(四日市市)（仮称）中心の対応）

- ☛ GX推進法(官民150兆円脱炭素投資)により、幅広い国内産業・製造工程に影響

② 「自動車」（ものづくりの総合拠点(四日市市)（仮称）中心の対応）

- ☛ 省エネ・軽量化の視点や、素材・成型・試作評価等の各工程で幅広い技術支援が可能

③ 「ライフイノベーション」（本所・連携の総合拠点(津市)（仮称）中心の対応）

- ☛ 多様な業種が固有技術を基に、成長性の高い医工連携やヘルスケア産業に参画見込

④ 「生産技術」（両拠点並行の対応）

- ☛ 幅広い分野での製造技術の高度化等、基盤的かつ多様な技術アプローチが可能

⑤ 「リサイクル」（両拠点並行の対応）

- ☛ 廃棄物の発生抑制、素材資源段階の有効利用を図るサーキュラーエコノミーを推進

(3) 2拠点体制における他機関連携・産学官連携による機能強化

総合的な企業支援機能の向上をめざして、他機関(産学官)連携の強化を図ります。

① 連携によって強化を図る支援機能

i：技術・経営両面でのワンストップ総合的支援機能

- ☛ 県産業支援センターが担う経営支援や市町等の企業OB人材活用等取組との連携

ii：共同研究の取組機能

- ☛ 国事業など外部の競争的研究資金の活用によるプロジェクトの実施

iii：技術人材の育成機能

- ☛ 産業支援団体や高等教育機関等との連携による人材育成や技術支援機能の強化

iv：地域におけるオープンイノベーション・インキュベーションの促進機能

- ☛ 起業等支援や産業関係情報・知見の集約・発信、技術革新や産業競争力の強化

② 本所・連携の総合拠点(津市)（仮称）の敷地内で一体整備を行う津高等技術学校との連携

工業研究所の持つ高度で専門的な機器設備や知見、利用企業とのネットワーク等を訓練生のカリキュラムで効果的に活用できる連携・交流の仕組みを構築します。

※建替え再整備を行わない工業研究所2拠点と津高等技術学校跡地の活用について

- ・再整備を行わない金属研究室(桑名市)と窯業研究室伊賀分室(伊賀市)の今後の活用は、津高等技術学校の移転後の跡地と併せて、「みえ公共施設等総合管理基本方針」及び「第四次みえ県有財産利活用方針」に基づく他用途への転用、市町等・民間への売却等も含めて、地域の意見・声を聞きながら、有効活用を検討します。
- ・なお、桑名・伊賀の両地域における企業への技術支援は、ものづくりの総合拠点(四日市市)（仮称）で整備する新しい施設へ機能移転するまでは、現存施設を活用して取り組みます。

3 工業研究所・津高等技術学校の施設整備について

(1) 整備の基本方針

利用企業・訓練生等の安全性や利便性に配慮しつつ、地域に開かれ、産業構造の変化やカリキュラム変更に対応するフレキシビリティを持つ施設とします。併せて、コストや耐久性、環境負荷低減の観点や、災害時の避難受入れ等の機能についても留意します。

(2) 施設整備における主な特長

基本方針に沿って、具体的には下記のような施設整備を進めます。

① 企業支援機能の強化に向けた他機関(産学官)連携に必要となる整備

・交流・コワーキングスペース、ホール、テストベッド(共同実証実験環境)など

② 安全性・利便性やユニバーサルデザイン等の観点からの整備

・スロープ、エレベーター等や津高技の訓練生等の安全に配慮した進入路等

③ カーボンニュートラルや環境との調和、環境負荷低減に向けた整備

・太陽光発電設備、緑地、EV(電気自動車)用充電スタンド等

④ 災害時や非常時の避難受入れ等の機能を担える整備

・耐震性や非常用電源の確保、災害時や有事の際の避難の受入れ(地下の整備)等

(3) 概算事業費

合計額として、約 245 億円を見込んでいます。

(内訳) 工業研究所：約 143 億円、津高等技術学校：約 102 億円 ※税込み

※R6 年 10 月試算。測量費、土壌汚染対策費、移転費、機器費用等は含まない。

※資材費・人件費等の変動によっても金額が変わることを見込む必要。

(4) 今後の整備スケジュール(予定)

令和 6 年度 : 「基本計画」策定

令和 7 年度 : 基本設計

令和 8 年度 : 詳細設計

令和 8 年度末 : 一部施設解体着工

令和 9 年度 : ものづくりの総合拠点(四日市市)(仮称)着工

令和 10 年度 : 本所・連携の総合拠点(津市)(仮称)着工

令和 12-13 年度 : 本所・連携の総合拠点(津市)(仮称)工事完了

令和 13 年度 : 津高等技術学校 着工

令和 14 年度 : ものづくりの総合拠点(四日市市)(仮称)工事完了

令和 15-16 年度 : 津高等技術学校 工事完了

※土地境界測量等・調査

※土壌汚染対策法にかかる調査 など

※移設作業完了後の機器調整・セッティングや供用開始に向けた準備等の期間は含まない。

※工事作業の進捗状況によって工事完了時期は遅延する可能性あり。